



## 緑の募金事業候補応募書

令和 3 年 1 月 15 日

公益社団法人 国土緑化推進機構  
理事長 濱田 純一 殿

応募者の名称等

〒 168-0063  
東京都杉並区和泉2-17-5

住 所

法人・団体の名称 公益財団法人オイスカ

代表者氏名 中野悦子

TEL 03 ( 3 3 2 2 ) 5 1 6 1

下記の活動を行いたく、「緑の募金」の「SDGs貢献使途限定募金」による支援を希望しますので、事業候補に応募いたします。

### 記

#### 1. テーマ (募集規則に定められたテーマのうち特に該当するもの1つを記載)

生物多様性の保全と回復への貢献 (SDGs目標15貢献)

#### 2. 事業名 (簡潔に記載。20字以内)

内モンゴルの砂漠緑化と肺炎症状を緩和する漢方薬栽培

#### 3. 事業目的 (この事業を行うことで解決したい課題等を具体的かつ簡潔に記載。60字以内)

砂漠化が進み黄砂の発生源でもある地域において新型コロナウイルス肺炎の症状緩和に効果のある薬草を栽培することにより、砂漠化防止・生物多様性増進・疾病症状の改善に貢献する。

a

#### 4. 事業内容 (募金者の作業参加を含め、何をどれだけ実施するのか等、簡潔に記載。

複数年の事業の場合、全体計画の位置づけも明示し、別途全体計画のわかる資料を添付)

砂漠化防止に効果のあるソウソウ (*Haloxylon spp.*) 等の植栽を行う。並行して新型コロナウイルス感染症 (肺炎) の症状緩和効果のある薬草の種子 (複数種) 採取用の苗畑も造成し、次年度以降栽培農家へ種子を無償提供できる体制を作る。栽培樹種は、青蒿 (沙蒿)、麻黄、射干、甘草等 (別資料: 新型コロナウイルス肺炎治療ガイドライン (P10黄線を参照))。なお、砂漠下では草本類の活着により土壌が固定され、昆虫や小動物などが目に見えて増加するなど生物多様性への貢献が期待できる。秋以降コロナ禍が収束していれば、募金者等対象の見学ツアーも企画したい。

(注) SDGsへの貢献について、別添に記載してください。

#### 5. 事業場所 (位置図を別途添付)

(都道府県・市町村・地番)  
内モンゴル自治区阿拉善盟阿拉善左旗  
(所有者) オイスカ阿拉善砂漠生態研究研修センター

全体面積	11	ヘクタール
実作業面積	11	ヘクタール

## 6. 現地の状況 (別途説明付きの写真、地図・図面等を添付。必要に応じて参考資料を添付)

オイスカアラ善砂漠生態研究研修センターは2006年に作られた研究と農牧民への研修施設であり、苗木や農作物などの栽培・普及を行っている。黄砂の発生源のひとつで砂漠化防止は重要な課題だが、同センターはこれまでこの砂漠で20,013haの植栽を実施。現在では住民並びに現地政府もセンターの手法を用いて緑化を行うようになったが、地域の砂漠化はまだ止まらず生物多様性も失われつつあるなど、植栽ニーズは以前として高い。

## 7. 事業実施希望期間

令和 3 年 9 月 ～ 令和 4 年 6 月

## 8. 事業実施スケジュール (特に、募金者の現地での作業参加の機会を明記)

時期	内容
令和3年9月-令和4年6月	プロジェクトスタート 苗畑整備、苗木準備
令和3年10月	漢方薬種子準備
令和4年3月-5月	植林、漢方薬植え付け
令和4年5月-6月	評価、報告書作成

## 9. 事業完了後の取組成果の展開予定

(事業完了後の維持管理(主体、内容、期間等)や成果を踏まえた新たな展開について記載。必要に応じて参考資料を添付)

砂漠緑化の主体活動として砂漠化防止に効果のある梭梭(ソウソウ・Haloxylon spp.)等の植栽を行うが、梭梭は健康増進に役立つ漢方薬の原料となるニクジュヨウの人工寄生が可能のため植栽後の住民による自主管理が期待できる。センターでも人工寄生・維持管理の研修を随時行っていく。一方、薬草に使われる草本類の造成に関しては、次年度以降そこでできた種を栽培農家へ無償提供し、研修を行って普及を図り持続可能な発展につなげる体制を作る。中国では、Covid-19肺炎患者への症状緩和に、副作用がない漢方薬を使った治療が多く行われており、該当種の造成方法が普及すれば、抗コロナ社会に向けてのモデル植林として普及する期待ももてる。

## 10. 資金計画書

区分		予算額 (千円)	内訳
収入 の 部	緑の募金交付金	2,960	
	自己資金	1,000	10ha 植林経費
	その他助成金		
	合計	3,960	
支 出 の 部	行動費	0	
	環境整備費	600	センター植林地 整備維持管理費6万円×10ヶ月
	資材費	700	植林苗木15000本(50万円)、漢方薬栽培1ha種子5万
	資材等運搬費	300	車代3万円×10ヶ月
	指導者経費	1,060	5万円/4万円×10ヶ月, 航空券1回12万, 宿泊費1回4万
	事務費	300	3万円×10ヶ月
	交付金計	2,960	
自己資金等計	1,000		
合計	3,960		

(注1) 自己資金等には他団体からのその他助成金を含めてください。

(注2) 募集規則の「交付対象経費」一覧で適切な科目区分をご確認ください。

(注3) 交付金での支援決定の前には、上記一覧の細分毎の額を提出いただきます。

## 11. 応募者の概要

法人・団体の設立年月日	1969年5月1日
連絡先	電話番号
	03-3322-5161
	F A X 番号
	03-3324-7111
	E - m a i l
	<a href="mailto:webmaster@oisca.org">webmaster@oisca.org</a>
	ホームページ
	<a href="http://www.oisca.org">www.oisca.org</a>
会員数	4275人（2019年3月末現在）
活動目的	オイスカでは「ふるさとづくり」を活動の根幹にすえています。オイスカの目指す「ふるさと」とは、地球上に生きる人間や他の生命がバランスを保ちながら共生する持続可能な世界です。この「ふるさと」を守り育てるための実践活動がオイスカの活動であり、この「ふるさとづくり」を活動目的としています。
主な活動内容	オイスカ・インターナショナルは「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に設立されました。財団法人オイスカ（以下、オイスカ）は、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなれるよう研修を行っています。オイスカの研修を修了した各国の青年は、それぞれの国で農村開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通しての啓発活動や、植林および森林整備による環境保全活動を展開しています。
主な活動地域	アジア・太平洋地域を中心に36カ国
主な森林整備及び緑化推進活動の実績 （具体的な数値を記載。「緑の募金事業」によるものは明記。必要に応じて参考資料を添付）	国内開発協力関係民間公益団体補助金…外務省／子どもゆめ基金助成金…（独）国立青少年教育振興機構／地球環境基金助成金…（独）地球環境保全基金／Global Corporate Citizenship 助成金…ボーイング社／海岸林再生プロジェクト10年計画助成金…三井物産環境基金／中国貴州省・河南省植林事業助成金…日中民間緑化基金／タイ東北分スリン県環境教育活動事業…経団連自然保護基金／富士山麓のける協働・参加型による森づくり事業…（独）地球環境保全基金／フィリピン生物多様性に配慮した環境植林プロジェクト事業…トヨタ自動車(株)／アジア隣人プログラム助成金…（財）トヨタ財団／「富士山麓協働・参加型生物多様性森づくり」事業助成金…（独）地球環境保全機構／あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金…愛知県／タイ・チェンライ県プロジェクト形成調査事業…（公財）国土緑化推進センター／緑の募金事業助成金…（公財）山梨県緑化推進機構／緑の募金公募事業度助成金…（公社）国土緑化推進機構／北海道「山・林・SUN」活動助成金…NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド／国際緑化活動事業：モンゴル植林事業…（社）静岡県緑化推進協会 など

## 実施事業のSDGs（持続可能な開発目標）への貢献について （整理表）

この整理表は、予定される事業のSDGs（持続可能な開発目標）への貢献について確認するものです。

1. SDGsの17の目標のうち、予定事業が、その達成に貢献する目標にチェック「✓」をしてください。（複数チェック可）
2. チェックのある目標について、その達成に貢献する具体的な活動を記入してください。
3. 申請に当たってのテーマ以外も含めて記入ください。

SDGsの目標		チェック	貢献する具体的な活動を記入
1	貧困をなくすこと	<input checked="" type="checkbox"/>	乾燥に強い漢方薬栽培を普及させることで、牧民らの貧困対策につながる
2	飢餓をなくすこと	<input type="checkbox"/>	
3	健康であること	<input checked="" type="checkbox"/>	Covid-19への予防治療の原料を栽培することで、脅威に対応する手段の一つとなる
4	質の高い教育	<input type="checkbox"/>	
5	ジェンダーの平等	<input type="checkbox"/>	
6	清潔な水と衛生	<input type="checkbox"/>	
7	再生可能エネルギー	<input type="checkbox"/>	
8	適切な良い仕事と経済成長	<input checked="" type="checkbox"/>	現地の人々に漢方薬栽培の仕事を作ることで、失業の減少に役立つ
9	新しい技術とインフラ	<input type="checkbox"/>	
10	不平等を減らすこと	<input type="checkbox"/>	
11	持続可能なまちと地域社会	<input type="checkbox"/>	
12	責任を持って生産し、消費すること	<input type="checkbox"/>	
13	気候変動への対策	<input checked="" type="checkbox"/>	植林を行うことにより、炭素を固定するだけでなく、地温を下げることでにより温暖化防止につながる。
14	海のいのちを守ること	<input type="checkbox"/>	
15	陸のいのちを守ること	<input checked="" type="checkbox"/>	植林により砂漠化を食い止めることで、黄砂を防ぎ土壌を回復させる
16	平和で公正な社会	<input type="checkbox"/>	
17	目標のために協力すること	<input checked="" type="checkbox"/>	コロナウィルスから立ち直る協力関係を作る

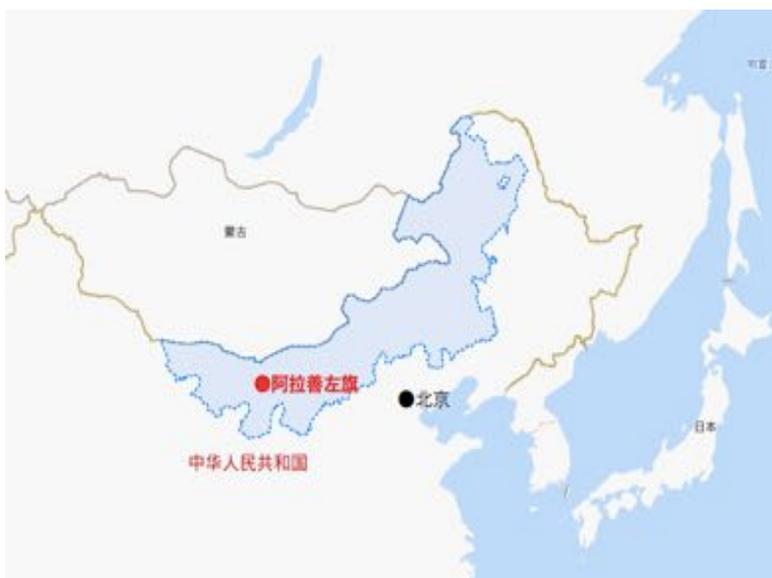
（注）SDGs（持続可能な開発目標）は、貧困や格差、気候変動、海・陸の豊かさなどのさまざまな問題を抜本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。  
詳しくは、国連広報センターのサイトや国土緑化推進機構のサイトのハンドブック等をご参照ください。

[http://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

<http://www.green.or.jp/about-us/sdgs/>

## 現地地図、資料

場所: 内蒙古自治区阿拉善左旗センター植林地



内蒙古にある阿拉善地区の面積は 27 万 km<sup>2</sup>(日本の 2/3 の広さ) 北京より 1300km 離れている。



センターは阿拉善左旗バインホトの町外れにあります 拡大図(9ha)



センター



研究や活動の拠点になっています。



紅格日(ホンガリ)村植林地(977 亩:65ha)うち 10ha



植林地にて梭梭の苗を植える。



農牧民ら



梭梭の植林 3 年後

## 植林樹種

### 梭梭



内モンゴルにおいては、かつて 800km に渡って生えていた梭梭 (*Haloxylon sp.*) 林がなくなり、砂漠化が広がり、黄砂の源になってしまいました。

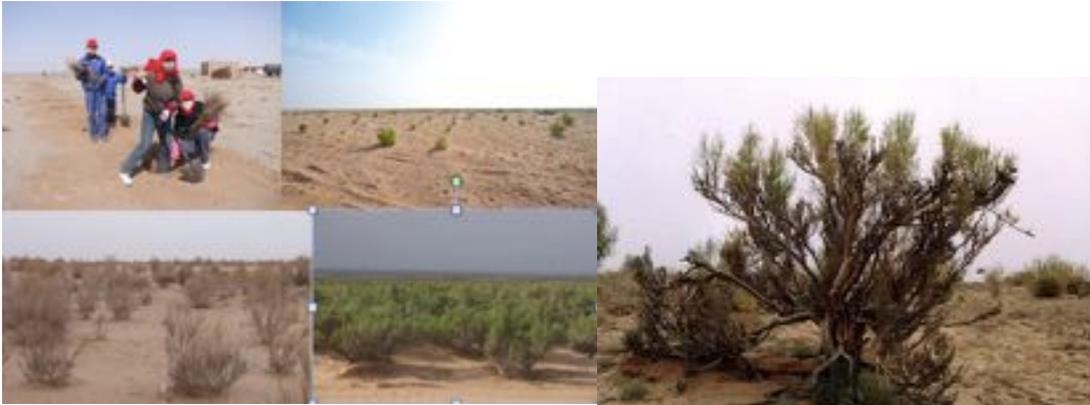
この梭梭を植林し環境を回復させることで砂漠化を戻そうとするチャレンジを 2002 年よりおこなっています。

また梭梭の植林及び、その樹に寄生する漢方薬であるコウバクニクジュヨウ (*Cistanche deserticola Y.C.Ma*) の栽培をおこなっています。

梭梭は中央アジアから内モンゴルにかけて育つ、乾燥や塩害にとっても強い灌木です。

この梭梭を植林することで、砂漠化を戻すことができます。また、植林してから 3 年後より、今度はその根にニクジュヨウの栽培を行います。

3 年を経て出てきたニクジュヨウは、高級漢方薬として牧民の収入につながるため、牧民たちの植林のやる気を起こし、昨年だけで、1 年間に東京都に近い 1700km<sup>2</sup> ほどの面積を植えるまでになり、緑化面積が急速に増えている状況にあります。



梭梭の木



梭梭とコウバクニクジュヨウの花

### 漢方薬栽培について

現在、世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされています。ワクチン開発が進む中で、中国においては漢方薬を調合して服用することにより症状を抑えるという実践を行なっています。その漢方薬の多くは乾燥地に生えるものが多く、植林とともに栽培を普及させることにより抑える一助になります。Against Corona 活動のためにも、緑化 & 漢方薬栽培を合わせて進めていきます。

国家衛生健康委員会発行の『医療機関内新型コロナウイルス感染予防と対策技術マニュアル(第一版)』、『新型コロナウイルス感染肺炎防護中の標準的医療用防護用品使用範囲の手引(試行)』に含まれる乾燥地において栽培される生薬を栽培する。



青蒿(沙蒿) カワラニンジン



射干 ヒオウギ



麻黄 マオウ



甘草 ウラルカンゾウ

他

## 内モンゴル砂漠化防止プロジェクト

場所: 内蒙古自治区阿拉善盟 2000 年スタート

受入機関: 内蒙古自治区阿拉善盟政府



左: 住民らに栽培指導 右: センター

### 活動開始の背景

内蒙古阿拉善左旗地域ではこれまで「オイスカ子供の森」計画を試験的に行い、地元の中学生への環境教育の植林活動が行われてきました。その経験から、本格的な砂漠化防止のためには、木々の植林だけでなく地表を覆う草本類などの植生回復を含めた研究調査並びに、その普及が必要であることがわかりました。そして、地域住民の生活安定のため漢方薬の原料と関係する草本類の育成など、環境保全型の産業の研究・普及など包括的なアプローチを行う拠点作りの必要性を痛感し、2006 年 10 月には、その拠点として内モンゴル阿拉善沙漠生態研究研修センターを設けました。



植林風景と植林後、元からあった原生林

### 活動概要

住民も緑化の重要性は理解してはいますが、何らかの利益や便益を得られる活動でなければ、積極的な住民参加は期待できません。そこで、プロジェクトでは、現地に自生するソウソウ (*Haloxylon* spp.) に着目。なぜならソウソウの根には、高価な漢方薬の原料となるニクジュヨウ (*Cistanche deserticola*) が寄生するからです。しかし、自然界での寄生率は 1 割にも達しません。そこで、同センターの富樫智所長 (千葉大学博士研究員) が研究を重ね、人工寄生の方法を開発し研究を続けています。



左: コウバクニクジュヨウ 右: 開発した遼伝来福酒

現在では、現在は寄生率が 9 割を超えるまでになり、ニクジュヨウの収穫を目的とした植林を希望する住民が多数であり、緑化も加速度的に進み、これまでにセンター周辺地域を中心に日中ボランティア 3600 名が参加し 1,400 ヘクタール 207 万本の砂漠が緑に変わりつつあります。

また、砂漠化を抑制するためには植林だけではなく、砂嵐とともに起きる地表面の砂の移動も原因になっていることから、砂の地表面を固定する力を持つ、シアノバクテリア (藍色細菌) を散布する方法も考えられるが、土着のシアノバクテリアを用い、千葉大学土壌学研究室と共同で研究を行っている。

なお、センターは実験室の他、植林している樹木「ソウソウ」の根に寄生する漢方薬の原料「ニクジュヨウ」の加工施設もあり、住民が持ち込む加工センターの役割を果たしています。

### 近況・今後の方針

2018 年度は、センター周辺巴彦浩特・通古淖尔地区、吉蘭泰地区、科泊那木格地区、タムス村での緑化を進め、合計で、11 万本、面積 66 ha の植林を行いました。加えて、砂漠用の保水土壌改良剤の開発にも取り組みました。

梭梭の植林は地域経済の発展とともに、現地林業局から求められる要望も変わってきています。今後は砂漠にて育つルピナグラス草へシアノバクテリアを合わせた緑化や草の飼料やキノコの菌床としての利用、ニクジュヨウの新しい寄生方法の開発と共に採れた漢方薬の利用のための薬味酒を循環にした緑化を進めながらプロジェクト対象地域の砂漠化防止を進めていきます。また、あわせて地球レベルで深刻化する砂漠化を抑制する事業に取り組んでいきます。



左: 本年よりスタート予定のルピナグラス 右: シアノバクテリア